



ふるさと



前川 二郎 会長

札幌当別会の皆さん、当別町の皆さんにはご健康で「活躍のこととお慶び申し上げます。」
昨年、新当別町長に「宮司正毅」氏が新しく就任されました。
皆様の当別町への今後の期待に応えられる、さらなる当別の発展に向けてご精励されるよう応援したいと思います。

また、札幌当別会では、昨年7月31日(水)に、「ふるさと団一行による、当別の歴史に触れ合いながら親交を深める行事もございました。一層「ふるさと」への誇り・親しみをお持ちになった事と思います。

札幌当別会、当別町の皆さんの多くの方のご尽力を頂き、会報誌ふるさとも一新し、札幌当別会も若返りを図っていき、わが「ふるさと」もさらに発展していくことでしょう。

今後とも役員一同「札幌当別会」の益々の発展に努めますので、ご指導ご鞭撻の程お願い致します。皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。私のご挨拶と致します。

第35回札幌当別会 「ふるさとの集い」 次第

とき:平成26年5月28日
ところ:札幌北広島クラッセホテル
司会:山田英寿(uhbアナウンサー)

1. 開会
 2. 会長挨拶
札幌当別会 会長 前川二郎
 3. 来賓紹介
 4. 来賓ご挨拶
当別町長 宮司正毅 様
北海道議会議員 内海英徳 様
 5. 祝杯
当別町議会副議長 後藤正洋 様
 6. テーブルスピーチ
 7. 当別音頭
 8. 昭和のうたごえ
 9. ワクワク抽選会
 10. ふるさと合唱
高橋千枝子さん指揮の下、皆さんとともに
 11. 中締め
当別町商工会 会長 山田 明 様
 12. 閉会
- *2次会へのお誘い(1000円会費)

2014・05 発行

札幌当別会 会報 第 34 号	発行責任者 会長 前川 二郎
発行 会報ふるさと編集委員会	



宮司正毅町長

札幌当別会35回目の「ふるさとの集い」が開催されますことに、当別町を代表し、お祝いを申し上げます。

私は、昨年8月の当別町長選挙におきまして、34代町長として町政の重責を担うことになりました。当別町は、過去10数年間、財政健全化に苦しみながらも、当別ダム completionによる水資源の確保と水害の

終息、学園都市線の電化等、泉亭前町長の強いリーダーシップの下でインフラ整備が集大成されました。

日本経済の好転の兆しも手伝って今までの守りの姿勢から攻めの町政に転ずる機会が到来したものと私は考えております。

昨年の9月に町長として初めての定例議会で所信表明として3つの基本姿勢と4つの施策展開を提案させて頂きました。

【基本姿勢】

1. 町の優位性を十分に活かした施策の展開
2. 守りの町政から攻めの町政に転じていく
3. 視点やモノの見方を変える

【4つの施策】

- ① 産業の活性化
 - ② 町に人を呼び込む
 - ③ 再生可能エネルギーを活用したまちづくり
 - ④ 少子化対策と教育・福祉
- 町の産業を活性化させ、雇用を創出し、町民の所得を向上させ、町での消費力を高められる施設をつくり、資金が町で還流する仕組み、そういう循環を生み出したいのです。

そして、自主財源の増大を図り、除排雪の充実、町営住宅の改善、公園の遊具整備等々、生活に密着した課題の向上に努めたいと考えています。

課題を克服するためには、支えるに足る人口のスケールが必要であり、支えるに足る税収の余力が必要なのです。

結びになります。札幌当別会の皆様におかれましては、「郷土当別」に對しまして一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、益々のご健勝を心から祈念申し上げます、「ご挨拶とさせていただきます。」

当別開拓物語 ⑤

河地 良一
(当別町園生・在住)

◆第1回の当別踏査

石狩川の河口に近いシップでの開拓をあきらめた領主・伊達邦直は、開拓使の役人から当別の地が肥沃であるとの情報を得たので、さっそく代替地「トウベツ拝借願」を開拓使に提出し、当別の調査を始めることにした。

明治四年(一八七一年)五月八日、家老の吾妻謙他四名が案内人を頼りにシップを出発し、知津狩(シラツカリ)沢に入った。しかし、笹藪や大木に阻まれ、一里半(六キロメートル)ほど進むが方向を見失い、道に迷ってしまった。

その日は、やむなく丘陵の山中で野宿することにした。案内人たちは冬季にきた経験はあるが、夏季に来たことはないという。

翌日、方向を確かめるため、広く見渡せる生振野に出て阿蘇岩山を見つけ、それを目印に大沢に着いたところで日没となった。

三日目は、材木沢まで進んだが、ここで大雨となり、大きな樹の下で雨を避けて一泊した。

四日目は、材木沢を下り当別川に辿りついたが、食料が尽き、衣服は破れ、疲労も限界に近く、ついに調査続行を断念してシップに一旦戻ることにした。

◆第2回の当別踏査

前回は、準備不足などもあり、調査目標を達成することはできなかった。そこで五月十四日、鮎田如牛他六名は、磁石をもとに知津狩川を二里(八キロメートル)ほど進み、この日は地藏沢付近で野宿した。

翌日、高岡の尾根を越え、今の西小川の水源に辿り着いた。この小川を下り、森林地帯へ入り、この夜は弁華別付近に一泊した。

三日目の朝は、当別川兩岸の地味などを確認しながら、さらに一里(四キロメートル)ほど南下し、今の市街地に辿り着いた。調査結果は、予想通りの肥沃な土地で、一同は大いに喜んだ。

こうして一行は十六日の日暮れを過ぎて、遅くにシップまで戻ることが出来た。

◆開拓使石狩出張所の請負工事

シップでの生活に見通しが立たず、先行きに大きな不安を抱えていたが、開拓使石狩出張所の増設工事の話があり、幸いこの請負工事を願い出たところ許可になった。

移住した家臣の中には、大工職を身につけた者たちもいて、その指示で工事は進んだ。ほかの業者から、いくばくかの中傷もあったようだが、家臣団の結でこの難局を乗り切った。

この工事代金千二百両は、当座の生活資金として重要なもので、移住民の生活を助けた。この工事は七月二十日に完成した。

◆当別への道路開削

幸い開拓使の当別借用許可が下りたので、六月二十二日から石狩出張所の増設工事と並行して、当別への道路開削工事の測量を始めた。石狩出張所の請負工事完成後は、移住民総出で、測量係のほか道路係、運搬係、小屋係、炊事係などに分かれて開削工事を進めた。

道幅一間(一・八メートル)、約六里(二十三キロメートル)の道路の開削は、二十三日に高岡、二十六日に知津狩沢、二十九日に材木沢を経て現在の当別神社の水松のあるところに到着した。

一同はこの完成を喜び、八月一日、この水松を開拓の目印にして、祝宴を催した。

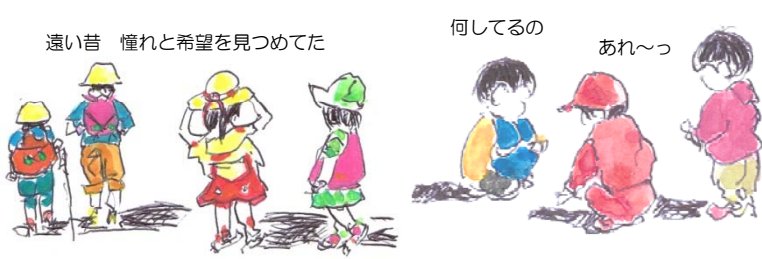
ふるさと (文部省唱歌)

高野辰之作詞
岡野貞一曲

うさぎ追いかの山
こぶな釣りしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたきふるさと

いかにいます父母
つつがなしや友がき
雨に風につけても
思いいずるふるさと

志を果たして
いつの日にか帰らん
山は青きふるさと
水は清きふるさと



何してるの

あれ〜

遠い昔 憧れと希望を見つめてた



あのこと... 逆立ち できなくて どうしよう...

早く授業が終わらないかなあーと 願ってた